

国道289号の早期全線開通をPR

「第8回R289フルコース踏破事業」開催



▲約300名の踏破に挑んだ生徒と実行委員会などの皆さん



▲伝統のタスキを肩にする生徒の皆さん



▲猛暑の中を懸命に走る生徒の皆さん

― 実行委員会が開催

早期全線開通をPR

7月28～29日の2日間、今年も新潟市といわき市を結ぶ国道289号の早期全線開通を訴える「R289フルコース踏破事業」が行われました。これは、国道289号八十里越の早期開通や福島県と新潟県の交流促進などを目的に、町内の有志でつくる「R289フルコース踏破実行委員会」が主催しているもので、実行委員会の協力要請を受けた只見高校1、2年生26名が新潟市からいわき市間約300キロを自転車で走り抜きました。

第8回目となった今回も只見高校の野球部やバレー部の生徒が中心となり、ピンク

と紺のユニホームを身に付け、

5人1組で新潟県庁をスタートし、約10キロの道のりを自転車ですきりしなげながらゴールのいわき市勿来の関を目指しました。その間、実行委員会が自動車やバスで並走し、生徒をサポートしていきました。

― 出発式で決意表明

全線踏破を誓う

前日の27日、生徒や保護者などの関係者が出席した出発式が只見振興センター前で開かれました。

出発式で、実行委員会の渡部仁一会長は「あと10年と言われている国道289号八十里越も5年後に開通予定と聞いています。それまでは、この事業を継続していきたい」



▲決意表明する生徒代表2年生の渡部倫さん(小川)



▲出発式で挨拶する渡部仁一会長(塩沢)



▲国定市長と一緒に記念撮影した生徒と実行委員会の皆さん



▲歓迎イベントで激励のことはを贈る国定市長

初日の28日、生徒たちは午前8時に新潟県庁前を出発し、国道289号を燕市、三条市と進み、八十里越工事区間はバスで通り抜け、初日のゴールである明和振興センターを目指しました。40キ地点の三条消防署では、三条市の国定勇人市長や市職員の方々に迎えられ、消防署内で歓迎イベントが行われました。歓迎イベントでは、国定市長が「皆さんの取り組みは八十里越の整備促進に向け大きな使命を持っています」と激励され、生徒代表

とあいさつし、只見町総務課の新國元久課長と只見高校の佐竹正徳校長が激励のことはを贈りました。続いて、生徒とスタッフ一人ひとりが「最後まで諦めずがんばりたい」などと抱負を語り、最後に生徒を代表して只見高校2年の渡部倫さんが「全員で踏破を目指し頑張ります」と力強く決意表明しました。

— 新潟県庁をスタート —

三条市で交流 —

午後5時過ぎに只見側ゲートに到着した生徒たちは、八十里越の工事に従事されている美馬建設(株)から踏破祈願のジュースなどを手渡された後、午後5時30分にゲートを出発。ヤマサ商店ではジュースやスイカなどが振舞われ、

に三条市特産のモモを手渡されました。生徒たちは、お礼に南郷トマトや朝採りアスパラガスを手渡し、両市町の交流を深めました。

また、50キ地点の三条市役所下田庁舎では、小旗や横断幕を手にした下田商工会の方々に迎えられ、生徒たちはミネラルウォーターを手渡されました。

70キ地点の八十里越工事区間では、新潟県側のゲートで国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所の方々と合流し、バスで移動。途中、5号橋梁や8号トンネル、7号橋梁などで工事説明を受け、早期開通を目指す八十里越を実際に見学した生徒たちは関心を深めました。



▲最先端技術を駆使した八十里越の工事区間を見学する生徒と実行委員会の皆さん

町内各所で多くの方々から声援を受けながら力走。午後7時に初日のゴールである明和振興センターに到着し、横田雅則明和振興センター長が生徒たちの健闘を称えました。

— ゴールのいわき市

— 勿来の関を目指す —

2日目の29日、生徒たちは午前6時30分に明和振興センターを出発し、国道289号を南会津町、下郷町、白河市、棚倉町、鮫川村と進み、ゴールのいわき市を目指しました。このコースは駒止峠（南会津町）や甲子峠（下郷町—西郷村）など急峻な道が多く、生徒たちは途中雨が降る中頂上を目指しました。待機中の生徒たちもバスから降りて一

緒に走り、自転車を後ろから押して全員で峠を登り切りました。90^〇地点の白河市内にある白河中継所では、国道289号（棚倉—下郷）建設促進協議会の方々に出迎えられ、「R289フルコース踏破byウォーク&サイクル2018」オリジナルタオル

とエールをおくられました。110^〇地点の棚倉町にある棚倉中継点では、棚倉町職員の方々などが横断幕を手に出迎えられ、「ゴールを目指して頑張ってください」と生徒にジュースを手渡し、応援されました。

130^〇地点の鮫川村では、大楽勝弘鮫川村長に出迎えられ、「生徒の皆さんも頑張つて国道289号早期開通をPRしてください」と激励をおくられました。

また、その他にも多くの方々からの声援やジュースなどをいただきながらゴールを目指し、午後6時30分にいわき市勿来の関に見事ゴールしました。ゴール後、渡部仁二会長と生徒代表の渡部倫さんをみんなで胴上げし、フルコース踏破の喜びを分かちあいました。

— R289号への想い

繋がる沿線市町村 —

R289フルコース踏破を終え、渡部仁二会長は「国道289号の全線開通は、只見

- interview -



実行委員会副会長
酒井 正吉郎さん

この事業の原点は、平成5年から始めた八十里越の吉ヶ平から大麻平を歩く「希望と歴史の道八十里越を歩く会」です。そして、平成22年に第1回目のR289フル踏破事業をスタートさせ、今では開通予定5年というところまできました。現実味を帯びてきたこの希望の道路の開通を期待しています。

- interview -



実行委員
長谷川 清之さん

この事業は交通量が多い幹線道路などを走るので、生徒たちの安全面を一番に考えサポートしてきました。生徒たちにとっても工事区間を実際に見学し、セレモニーであいさつしたりと良い経験になると思います。今後も開通するまで頑張りたいと思います。



▲タオルを受け取る生徒



▲ヤマサ商店の佐藤弘さんにお礼する生徒たち



▲沿道で生徒たちを応援する町民の方々



▲峠で自転車を押して助ける生徒



▲いわき市勿来の関に到着し、約 300km を走破した生徒の皆さん



▲鮫川村の大楽村長と一緒に記念写真を撮る皆さん

町にとって生き残りをかけた最後のチャンスだと思っています。特に、冬期間の通行が重要で、交流人口が増えるだけでなく、三条市や燕市なども通勤圏となり、町内からの人口流出も防げると考えます。また、この事業を通して国道289号だけでなく、八十里越や河井継之助なども含めて考えるきっかけとなればと思っています。今回も多くの沿線自治体から応援をいただいたことは、全線開通やつながらることへの期待が感じられました。改めて5年後の開通に期待しています。今後も皆さまのご声援をよろしく願います」と話されました。

このように、この事業は早期開通などをPRするだけではなく、開通前から多くの沿線町村とつながりを深めることも目的の一つとなっています。全線開通は只見町だけではなく、沿線市町村も期待を寄せており、実行委員会は今後も全線開通を目指し、活動していく予定です。

- interview -



只見高校2年
渡部 莉子さん

私は、今回が最後の参加となりますが、みんなで頑張つてゴールすることができて良かったです。駒止の峠はとても辛かったです。仲間が押ししてもらい次につながる事ができました。1年生には来年も頑張つてほしいと思います。

- interview -



只見高校2年
目黒 佳祐さん

今回2回目の参加でした。自転車に乗る回数は3回だけでしたが、峠などでメンバーをサポートできてよかったです。関係者の皆さんや沿道で応援してくれた方々、差し入れをくださった方々には本当に感謝しています。ありがとうございました。